



## 「つながり」を大切に

教頭 篠田 美希子

11月14日（金）、「堀川小学校・堀川中学校 小中連携挨拶運動」を行いました。当日は、20名余りの生徒の皆さんが堀川小学校に来校くださいました。参加した生徒の皆さんは、堀川小学校の卒業生です。子どもたちにとっては、堀川小学校の先輩であり、懐かしいお兄さんお姉さんです。生徒の皆さんが優しく、笑顔で挨拶をしてくださると、子どもたちはとてもうれしそうでした。いつもより張り切って挨拶をする子ども、ちょっと恥ずかしそうに会釈をする子ども等、表情は様々ですが、子どもたちの様子から、互いに挨拶をすることで、心の「つながり」を感じていることが伝わってきました。「おはようございます」と一言交わすことで会話へとつながり、「〇〇さんに会えてうれしいな」「私は元気に頑張っているよ」など、様々な気持ちを伝え合っているようで、子どもたちの姿を見ているこちらも、とても温かい気持ちになりました。

本校では、毎朝くらしづくり委員会の子どもたちが登校してくる仲間に挨拶をしています。「自分たちから挨拶をすることで、学校や地域に挨拶があふれるように」と願い、活動しています。力のある声で挨拶をしたり、時にはジェスチャーも交えて表情豊かに挨拶をしたりと、日々工夫をしながら取り組んでいます。



毎朝、挨拶をしている子どもたち

12月5日（金）、「地域教育推進協議会」同時開催として「第3回学校運営協議会」を開催いたしました。自治振興会役員の皆様をはじめ、各種団体、町内会長、民生委員・児童委員、有成会、地域役員の皆様、そして、学校運営協議会委員の皆様に多数ご参会いただきました。会の中で、くらしづくり委員会の子どもたちが2学期の取組について紹介する場面がありました。ある子どもが毎日続ける挨拶運動について、「最初は声を出すことが恥ずかしかったけど、みんなと一緒に続けることでだんだん楽しくなってきました。また、挨拶が返ってくるとすごくうれしいです」と話しました。その後、委員の方から、「学校で楽しいことは何ですか？」と問われると、ある子どもは、「くらしの時間が楽しいです。仲間の話を聞くことで、仲間のことを知ることができるからです」「くらしの時間に仲間の好きなこと等を知ること、仲間との仲を深められます」と答えました。子どもたちの発言から、子どもは仲間や身の回りの人々との「かかわり」や「つながり」を求め、その「かかわり」や「つながり」の中で、日々様々な喜びや楽しさを感じているのだということを改めて実感することができました。

今年一年も、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動に多大なご協力、ご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。来年も、保護者の皆様、地域の皆様との「つながり」を大切に、子ども一人ひとりが求める「つながり」、そして、子どもの自己実現に向けた歩みを支えてまいります。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 12月の行事予定

- 1日(月) 集金振替日
- 2日(火) 6年2組 授業研究  
～6日(金) 学習のまとめ週間
- 4日(木) 委員会活動
- 5日(金) 地域教育推進協議会 近隣ファミリー会  
第3回学校運営協議会
- 9日(火) ～12日(金)  
個別懇談会(希望制)
- 15日(月) 避難訓練 安全点検
- 18日(木) 堀川チャレンジ活動
- 23日(火) 給食最終日
- 24日(水) 第2学期終業式
- 25日(木) 冬季休業(1月7日(火)まで)
- 26日(金) 執務納め



## 1月の行事予定

- 1日(木) ㊦元旦
- 5日(月) 集金振替 執務始め
- 8日(木) 第3学期始業式 書初大会
- 9日(金) 給食開始
- 12日(月) ㊦成人の日
- 15日(木) 避難訓練 安全点検 委員会活動
- 22日(木) 堀川チャレンジ活動
- 27日(火) 第4・5学年スキー教室
- 29日(木) 委員会活動



## 9歳ならではの

3年3組 太田 聖久

3年生の理科の学習では『音』の正体』という学習に取り組んでいます。この学習は、「音」という自然事象に対して、子どもたちが各々の着眼点を足掛かりとして、観察や実験を繰り返しながら、その実体に向かっていきます。学習が始まって約1か月。子どもたちは、様々な取組を積み重ねてきました。

Aさんは、よく姉妹で容器に水を入れて掛け合いをするそうで、そこに着想を得て「水を容器に溜められるなら、音も溜められるのではないかな」と考えました。そこで思いついた方法が、名付けて「お鍋に音を閉じ込めよう作戦」。蓋の付いた鍋の中に向けて大きな声(音)を出し続け、瞬時に蓋を閉めて音を閉じ込めようというのです。しかも、ちょっとした隙間から音が漏れていけないよう、蓋にある小さな蒸気口をテープで塞ぐなど、自分で考えた作戦の成功のため、細かな調整にも余念がありません。Aさんは、これでもかといばかりに「わあー!」と大きな声を出し、勢いよく蓋を閉じました。さて、鍋の中に音は溜まっているのでしょうか。周りの仲間も固唾を飲んで見守ります。少し緊張した様子で蓋の取っ手を握り、思い切って蓋を開けました。結果は……シーン。何も聞こえませんでした。拍子抜けな雰囲気、思わず笑ってしまう子どもたち。予想とは違ふ結果に、「何も聞こえなかったよ。音はどこにいったのか」と更に疑問が深まったAさんは、「鍋の底面や側面に音が伝わって、そのまま外に逃げているのでは」と考えました。現在は、鍋の周りに気泡緩衝材を巻き、音が更に逃げにくくなるような工夫をして再度挑戦しようとしています。



【鍋の中に向けて声を出すAさん】

一見、当たり前のように思えるこの「音を溜めることができない」という事象。しかし、これらは拡散や減衰といったエネルギーの性質であり、理科的に価値のあるものです。Aさんは、図らずともそれらにふれ、その様相を楽しんでいたのでしょうか。こうしたAさんのユニークな発想は、3年生らしい純真さと科学の目の芽吹きを感じさせてくれるものでもあります。9歳という年齢は、五感を通して把握できるような具体物を土台としながら、目に見えず、感覚的には捉えられない本質等を探究する中で、理解力や思考力が高まってくる年代だと言われています。このことは、有形的な事物である「物質」を基に、無形的な事象である「音」というエネルギーを理解しようとするAさんの姿と重なるのではないのでしょうか。時に教師の想定を飛び越えてくる子どもの発想の豊かさには、大変驚かされます。この時期だからこそ生まれてくる子どもらしい考えを大切にしながら、科学事象を解き明かそうとする子どものエネルギーを大切に学習を展開させていきます。

### 新しい学習の場を建設中です!

グラウンド南側に「どろんこ広場(仮称)」を建設中です。

「どろんこ広場(仮称)」では、例えば、生活科での学習での活用を考えています。子どもが、体全体を使って泥遊びをしたり、保育所の子どもたちと泥遊びを通して交流したりすることを想定しています。

現在は、「どろんこ広場(仮称)」の最後の仕上げの段階で、令和8年度から活用できるように作業を進めています。

